

第 166 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 4 年 6 月 22 日（水）13:40～14:40

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

<報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。

<議題事項>

- ◇ 沖縄県対処方針の変更について議論した結果、6/24 より変更することとした。

1 参加者

玉城 知事、照屋 副知事、池田 副知事、島袋 政策調整監、嘉数 知事公室長、
宮城 総務部長、儀間 企画部長、金城 環境部長、宮平 子ども生活福祉部長、
系数 保健医療部長、前門 農業振興統括監、松永 商工労働部長、
宮城 文化観光スポーツ部長、島袋 土木建築部長、名渡山 会計管理者、
半嶺 教育庁、我那覇 病院事業局長、松田 企業局長、
県警 平良 県警第二課次席 宮里 感染対策統括監、
高山 政策参与、テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

2 報告事項

(1) 沖縄県新型コロナウイルス感染症対策：警戒レベル判断指標等の状況について

- 総括情報部から警戒レベル判断指標等の状況について報告があった。
 - ✓ 人口 10 万人当たりの新規陽性者数は、2 週間前から 500 人台で推移しており、6/21 は 549.32 人となっている。
 - ✓ 病床使用率は、30%～40%を推移しており、6/21 は 39.7%となっている。
 - ✓ 重症者用病床使用率は、6/21 は 10.0%となっており、警戒レベル 1 の状態が続いている。
 - ✓ 参考指標の新規 PCR 陽性率は、15%を下回る数値で推移しており、前週比も 1 を下回る日が続いている。

- ✓ 6/21 の新規陽性者数は 1,421 名程度であり、本日の陽性者数は、1,580 名で、先週より 166 名の増。
- ✓ 入院中の患者は 240 人台～250 人台が続いており、なかなか減らない状況が続いている。県基準の重症患者は 3～5 人で推移。宿泊施設療養中は 500 人台で推移、自宅療養者は昨日 8,000 人を下回った。療養者数は全体で 9,000 人台後半から 10,000 人台半ばとなっている。

(2) 沖縄県内及び全国の感染状況について【資料 3、3-1～3-11】

- 総括情報部から、警戒レベル判断指標の状況や各種分析資料について報告。
 - ✓ 非コロナ病床については、一般病床の項目で 6/21 の総合計は 94.7%で、本島では 95.6%と高い使用率になっている。特に中部では 100%を超える日もあり沖縄本島を中心に依然高い使用率となっている。
 - ✓ 直近 1 週間の人口 10 万人あたりの新規陽性者数は九州・沖縄での感染拡大が続いている状況。
 - ✓ 患者受入医療機関の就業制限(休業)状況を見ると、6/21 で 363 名が休業している状況で、うち看護師が 193 名と半数以上を占めている。一時期のピークは過ぎたが、依然 300 人が続いている。
 - ✓ 沖縄県疫学・統計解析委員会の報告によると、沖縄本島の先週の実効再生産数は 0.95 で、沖縄の他の地域も 1 を下回っており、全県的に陽性者数が減少している。
 - ✓ 年齢階級別にみる陽性者数は、10 代が最も多く、次いで 10 歳未満、30 代と続いていく。
 - ✓ 社会福祉施設で療養されている陽性者は先週末時点で 41 施設 209 人となっており、高止まりしている。
 - ✓ 今週の新規陽性者数は 6,500-9,000 人、入院患者数は 260-290 人が見込まれて

おり、今月中の流行規模は横ばいで推移するものの、7月の3連休を経て、7月下旬に感染拡大が考えられる。ただし、BA.5の市中による拡がりによっては、再拡大が早まる可能性が高まる。

- ✓ オミクロン株 BA.5 については、衛生環境研究所の実施するスクリーニング検査及びゲノム解析により、中部保健所管内の4名から初めて発見された。
- ✓ 患者は20代～60代で、うち3名は家庭内接触での感染となっており、市中感染が起きている可能性が考えられる。
- ✓ 第6波で主流だったBA.1と比較すると、BA.2は1.21倍、BA.5は1.40倍感染力が高い。重症度、病原性やワクチン効果については不明となっている。

(3) ワクチンの接種状況について【資料9】

➤ 総括情報部より報告。

- ✓ 6/20時点での接種実績として、1回目71.6%、2回目70.8%、3回目45.2%が接種済みとなっており、3回目の接種は高齢者の83.9%が接種済みとなっている。
- ✓ 6月18日に読谷村地域振興センター臨時会場で27名に接種を行った。同日読谷村でも近隣でファイザーのワクチン接種を行っており、こちらは70名程度が接種を行った。
- ✓ 4回目接種について、対象期間は7/1（金）から当面の間で、6/23（木）午前10時より予約受付を開始した。
- ✓ 接種対象者は3回目接種から5か月経過した60歳以上の方で、接種券を持っている方。接種するワクチンは武田／モデルナ社ワクチン。接種会場は北部、中部、南部に設置。
- ✓ 沖縄県広域ワクチン接種センターでは、引き続きモデルナ社ワクチンによる3回目接種についても実施する。モデルナ社製ワクチンを使用した1・2回目接

種については、北部では 6/25（土）、中南部では 6/30（木）をもって終了し、それ以降は 3 回目接種も含め、武田社ワクチン（ノババックス）を使用し実施する。

（4） 県立病院の状況について

➤ 病院事業局より県立病院の状況について報告

- ✓ 6/21 時点の県立病院の入院患者数は全体で 63 名となっており、前回報告より 8 名減、前々回報告より 23 名減で、最近は 60 人台で推移している。
- ✓ 県立病院の入院者数の内訳としては、北部病院 30 名、中部病院 16 名、南部医療センター10 名、宮古病院 3 名、八重山病院 2 名、精和病院 2 名の計 63 名で、非コロナ病床稼働率は本島が 95%前後と高く、宮古八重山は 80%台、70%台となっている。
- ✓ 北部病院では酸素投与が必要な中等症の患者が増えてきている。入院患者が多い理由としては、病院が少ないこと、高齢者施設などで早め入院させ、重症化を防いでいるため。
- ✓ 中部病院で 5 月に発生したクラスターの累計感染者数は 40 名で、うち入院患者 2 名が死亡し、6 月 18 日をもって終息した。職員の濃厚接触者の解除が進み、休業者が減少してきた。一般病床の確保については相変わらず難渋している。亡くなった 2 名については、原疾患の増悪が原因である。
- ✓ 南部医療センターでは 6 月に発生したクラスターは累計感染者 18 人全員が回復し、6 月 20 日をもって終息した。1 ヶ月の新生児がコロナ肺炎で中部病院から搬送され PICU で人工呼吸を行っている。小児は次々入れ替わりで入院があり、ヒトメタニューモウイルスや RS ウイルスの感染も多く、小児病棟はひっ迫している。
- ✓ 宮古病院では最近のコロナ患者の入院は減少しており、院内は落ち着いている。

- ✓ 八重山病院では新規陽性患者数の減少傾向が下げ止まりの状況である。
- ✓ 精和病院の入院患者は2名。コロナ病床は酸素配管工事のため6/18から7/3まで2床に減床しており、7月4日から14床に戻る予定。

(5) 宮古・八重山地域の感染状況について

➤ 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。

- ✓ 宮古では週当たり260人程度となっており、前週比0.67倍。順調に下がってきている。
- ✓ 年齢層は、40代が最多で20%。10歳未満は18%。10代が16%と前回より6ポイント下がっている。20歳未満が下がった一方で40代、50代、60代以上の割合が多くなっている。
- ✓ 職業としては、公務員や空港の職員の陽性者が目立った。
- ✓ 施設の発生状況は週4件で横ばい。週22件出ていた週もあるので、約1/5。
- ✓ 施設全体では160施設で、1施設あたり2.27の陽性者が出ていた。第6波では2.89。
- ✓ クラスタ発生率については6.9%くらい。第6波では12%だったので、低く抑えられている。
- ✓ 新規クラスターは先々週2施設疑いがあった。高齢者施設と特養で、現在施設内療養で高齢者施設が5名、特養が1名。利用者はほとんど3回目接種済みのため、ワクチン効果はかなり減少していることが予想され、4回目接種が重要な時期と思われる。
- ✓ 保健所の体制については、新規感染者減少に伴い6/13から窓口業務を再開。出先の動員も今週頭から0名となっている。

➤ 八重山地方本部から八重山地域の感染状況について報告。

- ✓ 6/15の週の感染者は256名で前週比1.2倍と八重山では下げ止まりから増加に

転じているのではないかということが懸念される。

- ✓ 年齢別に見ると 10 歳未満、30 代、40 代、10 代の順番が多い。10 歳未満は少し割合が下がっているが、10 代が増加しており、60 代以上は前週から半分以下になっている。まだまだ子どもを中心とした感染が広がっている。
- ✓ 感染経路は家庭内の感染が多くみられる。
- ✓ 小規模離島での発生状況は、竹富町が新規 17 名、療養中が 18 名。すべて竹富町の住人で、自宅療養。与那国町では新規 8 名、療養中が 9 名。すべて与那国島の居住者。スポーツイベントなどがあり、そこで拡大した可能性。
- ✓ クラスタ関係について調査中のものはないが、高齢者施設の職員の陽性が確認されたため、西表ということもあり現在調査を行っている。竹富町の訪問看護職員の感染も確認されたため、接触状況について確認中。
- ✓ 5 名以上の陽性者が確認されたが保健所から調査に入ることがなかなか難しい。
- ✓ 保健所の体制として、現在動員は解除しており保健所職員で対応中。人員が足りない際は、宿泊施設療養所の看護師を活用しファーストコンタクトを取っている。

(6) 空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の運用状況等について【資料 10】

- 文化観光スポーツ部から、空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の状況について報告。
- ✓ 空港 PCR 検査プロジェクトについて、6/13 の週の受検者は 2,130 名で、前週比 -44 名。内訳は、県内在住者 1,997 名、県外在住者 133 名、陽性者は 36 名で、陽性率は 1.7%。
- ✓ 那覇空港抗原検査について、受検者は 283 名で、対前週比-6 名。うち県内在住者 222 名、県外在住者 61 名、抗原検査陽性は 0 名であった。

- ✓ TACO について、6/13 の週の電話対応件数は 28 件で、うち健康相談・問診実施数は 10 件となっている。
- ✓ RICCA について、6/17 時点の登録者数は 151,025 名となっている。(前週より +182) 登録施設等は 19,233 件。(前週より+22)

(7) 第 15 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策専門家会議について【資料 11】

- 総括情報部より発言要旨メモに沿って説明。
 - ✓ 議題として、対処方針のフォーマット変更の検討、会食の要請の緩和、部活動の緩和について提案。
 - ✓ 特に飲食については現在の感染状況から、流行の中心が 20 歳未満、入院は高齢者となっており、いずれも飲酒を伴う会食を行う年齢ではないこと、会食制限が半年以上続いて居ることから、認証店に限っては 4 人以下、2 時間以内を一旦解除したい旨説明。
 - ✓ 委員からは、わかりやすくすることは大切で、これまでの対処方針は細かすぎるといった意見がある一方で、シンプルすぎると意見もあった。そのほか日常の注意喚起の県民メッセージが伝わるようにするべき、文章が減って、県の感染症対策が大きく緩和するといった誤ったメッセージとして捉えられないかといった意見もあった。
 - ✓ 会食に関する要請については、緩和は容認できない。沖縄県の感染状況は日本で一番悪い。医療現場でも職員の感染等により休職が増えており、感染対策を緩めることが理解できない。医療現場の状況と乖離しており、緩和することは請求であるという意見がある一方、対策の効果が見えにくいとのコメントには賛同する。子ども達の流行が中心で、このような中で、飲食店での感染が要因というエビデンスは乏しい。要請を解除してもよいと思うがもう感染状況は落ち着いたと県民へ誤ったメッセージにならないか懸念がある。段階的に緩和し

ていくことが合理的と考える。個人的には、人数制限は緩和しても、時間はだめといった意見や、「4人以下・2時間以内」は、認証店、非認証店ともに、効果が見えないので、解除でもよい。感染が増えた場合は、制限について協力をお願いすることについてきちんと示すなど、メリハリを付けるべきであるという意見があった。

- ✓ 緩和する案を出すと、県民も感染は落ち着いている受け取ることなる、そのような覚悟が必要。1000人ぐらいは許容するとの認識でよいかといった意見があり、県としては、ある程度の流行を容認して、社会経済活動を回すことは、ウィズコロナの議論になっていく。そこは、医療現場のひっ迫も大事な情報であるが、医療以外の様々な分野の方のご意見を伺いながら、県全体の大きな方針があるべき。現状の感染状況や対策のメリハリ等を踏まえて、緩和を提案しているところであり、保健医療部だけで流行を容認するかどうかの判断は難しいことを説明した。
- ✓ 会食以外の対処方針の変更（案）については、高齢者や妊婦のようなリスクの高い人への取組が重要であるため、削除すべきではない。「PCR等の検査」を削除するのではなく、「抗原検査キットの使用を促す」内容にすべき。沖縄は移入例も多いので、県外との往来では、検査推奨を強調すべきである。といった意見があった。
- ✓ ワクチン接種については、期日を決めて、目標設定する。各市町村でも目標を決めて進めていくべきである。という意見があった。
- ✓ 基本的な感染対策の定着・維持として、今後ヒトメタニューモウイルスやインフルエンザの流行も考えられる。特にワクチン接種が緩まないよう、日常の感染対策の維持もメッセージにするべきという意見があった。
- ✓ 今後のリスク、非コロナも含めた医療ひっ迫について、ウィズコロナの場合、死亡率の上昇など、一定のリスクがあることをきちんと説明する必要がある。

医療のひっ迫については、非コロナも含めて発信してほしい。という意見があった。

- ✓ まとめとして、対処方針については特に県民に伝えたいメッセージを強調し、シンプルに県民に伝わりやすいようにすべき。重要なメッセージまで省かないようにすべきといった意見があった。
- ✓ 会食については一定の条件を付して、概ね容認の意見が多かったが、反対の意見もあった。
- ✓ 医療現場は厳しい状況であり、県民に対して、誤解を与えることがないようにすべきという意見があった。
- ✓ 基本的な感染対策は、県民に広く定着しており、コロナ以外の感染症対策としても引き続き続けていくべきという意見があった。

3 議題事項

(1) 沖縄県対処方針の変更について

➤ 総括情報部より説明

- ✓ 新しい対処方針として、6/24より変更する。タイトルは、県民の皆様へのお願い～身につけた感染対策を定着させよう～とする。
- ✓ 県民に大きく伝えたい三点として、1点目は、ご自身と大切な方を守るため、コロナにうつらない、うつさない意識を心がけましょう。2点目は、「日頃から」、「体調不良のとき」、「会食時」の3つの場面における感染対策の徹底をお願いします。3点目は、発症予防・重症化予防のため、ワクチン接種をお願いします。また、※として医療のひっ迫が懸念される場合は、対策を強化します。の文言を記載している。
- ✓ 2ページ目には1ページ目に記載したいくつかの項目について、ブレイクダウンした形にしている。①日頃から 感染対策を心がけましょう、②体調不良の

ときは 発熱、のどの痛み、咳、鼻水など、少しでも症状がある場合、通勤、通学、外出、会食を控えてください、③会食時は できるだけ大人数、長時間の利用を控え、会食時はマスクを着用しましょう、④ワクチン接種は 3回目接種をお願いします（高齢者、基礎疾患を有する方は4回目接種）の4点について特出しし記載。③会食時は について、感染防止対策認証店以外の店を利用する場合、4人以下・2時間以内で行うことを記載している。

- ✓ 3ページ目から5ページ目には、従来の対処方針に記載されていた内容について、引き続き記載している。記載項目としては、来訪者（沖縄への来訪を検討している）の皆様へ。飲食店等の皆様へ。イベントの開催について。商業施設、集客施設の皆様へ。事業者の皆様へ。学校へのお願い。の6項目について記載している。
- ✓ 6ページ目に、沖縄県ではこれまでの2年間、7月の連休後に感染が拡大していることを受け、夏の流行拡大を最小限に抑えるため、4つの対策についてご協力をお願いする内容を記載している。4つの対策については、1. ワクチンを接種しましょう 2. 感染対策を心がけましょう 3. 適正な救急受診を心がけましょう 4. 会食による感染リスクを認識しましょう として記載している。
- ✓ 7ページ目には、厚生労働省が作成した屋外・屋内でのマスク着用についてのポスターを掲載している。屋外でマスク着用が推奨されるのは、距離が確保できない会話の際のみで、その他はマスク必要なしとなっている。屋内ではマスク着用推奨が多いが、距離が確保でき会話をほとんど行わない場合はマスク必要なしとなっている。夏場は、熱中症防止の観点から、屋外でマスクの必要のない場面では、マスクを外すことを推奨すると記載されている。

（2） 質疑応答

- ✓ RADECO の活用について、制度開始当初はすぐ申込上限となってしまったが、離

島での申込状況などについて確認したい。

→開始した 6/13 の週では、一日 100 世帯分の受付としており、申込開始と同時に締め切りとなる状況が続いていた。今週から一日 200 世帯分まで受け付けを行っている。離島からの申込状況については持ち合わせていない。小規模離島については、あらかじめ役場などに抗原キットを配布し、島民が受け取りに行く形をとっており、現在 6 離島で準備している。今後拡大していく予定。

✓ その他、対処方針の文言について意見提案があった。

➤ 意見のあった文言の意見提案等を踏まえ、沖縄県対処方針を変更することとした。

閉 会